

ちんちんこのまゝに祀ふ一もむ  
葉をせよをたえぬ心こも  
そり杖のあとをともかくそり  
人も世もまほらまゝに  
とよみあはるるに十箇のまゝ



つゝ然に世福の徳を展  
もつゝ向碑を建つるに  
如後く然るんとも共  
い人業の督力のいさ  
を戸理そつゝ命を  
あゝ川鄙野集と名づく

碑の徳をよほす  
るにたつて予は  
と云ふも建つて思ふ  
念佛の乃玉一念  
佛見法海よもよ  
あはれ一云成述はも

寸心多事に合掌得侍して心静  
きおく

松久吉信

鄙情集

天保十四年卯四月廿五日  
勝流山智徳禪寺長行

追善願起之他借

祖翁

永平自然嘯く多しぬるるに程成

起くし其妻の足ゆきすに野

北洋

舊衣残衣羽織く匂にし多

杜翠

くくくきくくし其心は此のま

雲濤

時くくくくくくく絶

眉

静池

わんわんあやふく入ぬ上の間  
龍具

二と又月如のりくそきふふ山  
迦孫

さしあそ鳴た畑ふさきくけり  
曾三

あきつた扇を特毛もきくそきふ  
亘静

今日も麻ね修他代糸  
吾蝶

川原に籠籠もきくけり  
爽富

廿五とあそよのそけ大根  
大耕

姑た麻糸の糸糸糸糸糸糸糸糸  
北岩

一

秋物あきくそきふ山  
五桐

梁紙片と片紙と  
志扇

すきとあつと桐のそきふ  
玄鯉

そきふとあつと桐のそきふ  
字弘

流るんふはよゆきとくそきふ  
好静

秋物あきくそきふ山  
素行

流るんふはよゆきとくそきふ  
左月

流るんふはよゆきとくそきふ  
蘿富

好風風印する酒も忘れず

可鬼

友之聲も水通板の胸をく

十銭

屋板は物のはげんを

萬花

赤心といふことなれ

松竹

舟の果報をわめ

曹村

唐申は板のより社文より

采海

舟の向くは是れ

沙塵

舟板もあつて人の心を

三亭

=

拾枝とて幕の隙

嵐

掃除は外を積む二階

丘阿

舟の茶求むる

松島

剣のさすを常の金銭守つ

茶束

水への描ぬは板

松九

名目もあつて

雷激

舟の昔も色つ

蓮室

出代は階上も

具堅

産屋は伽の戦うた可也	龜玄
新境の丁子	成勝
活油のり	泉保
とらふをたひ	柳匠
今やうの種を継ぐ忘の子	石坡
二三日のうらたう弱う	况墨
さうれ	菊芽
賞物の用	雲山

とらふをたひ	大は余宮	冷勢									
さうれ	草前	井膳									
月	役振舞	此大一座	春宝								
乳	足	兼	亘郎								
極	多	名	毛書	梅木	流	静谷					
踏	拾	少	毛	村	此	厄	女	霞流			
ま	ち	や	う	ぬ	踏	物	ま	拾	す	る	英高

多し〜あきる陸蓮の唯 松年

横丁一回きふ遠くふ〜 陸 蓮高

換り中あきる〜 鷗 竹陽

世〜〜毛つ〜ぬ虎のあきる〜 千牛

小千谷編た〜者〜え〜す〜し 岩鳩

す〜〜〜花〜〜ぬ池の蓮 東川

月松明〜ゆ〜門ち〜た〜顔 紹堂

〜の〜れ〜彩酒の紙〜二〜度〜歩〜り 大栗

〜〜〜〜と〜〜〜〜 蒼白

〜〜〜〜〜檜皮〜流〜を〜打〜つ〜を 菅里

〜〜〜〜〜檜〜掃〜く〜は〜み〜た〜岩 嘯松

家〜〜〜〜古〜〜〜〜作〜た〜面 目蓮

道〜〜〜〜ゆ〜〜〜谷〜た〜無〜茶 かつこ

〜〜〜〜敵の由〜〜〜〜〜〜 月采

水〜〜〜〜〜椀のぬ〜〜〜〜 貴弘

都〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜出〜角 蕉路



風りり雪のまねく

素重

待たぬ世に今も月出さ

萩屋

梅くちあはつりや

庭芝

着た着たあまの心

柳外

散れば総も階の

雲海

辞置すれと縁井と

南号

細く

止存

物花と那の

物

五

あまのこころ

梅里

出た時を

忘る

さし

風情

花の

花月

夕

思院

何く

沈秋

お

應宇

い

常求

柳のこゝろふ柳のいふをよ  
 空外に金毘羅舟のま物とれ  
 上もよ吉の河に下師  
 着る襦袢もあはれとぬた通り  
 地震のあはれとぬた通り  
 月よあふいと時の細仲間  
 孫よこゝろく焼芋の灰  
 山とくふ人山ふし村は村紅筆

曉山  
 上野  
 蘭山  
 柳曉  
 栳里  
 礪成  
 竹筴  
 戈雅

山さきうらを水通はるし  
 余所のまを我子のやま抱り  
 河目れ便くすそ屋の  
 出るわらわとよむも本葉屋  
 晴る日柳の己別より白あふ  
 年々よ香の海ぶきの道廣く  
 ちうちうと傳はるる鳥は鳴り

柳文  
 角孫  
 志若  
 逸交  
 三貫  
 茶山  
 水由

平向者前書略

今日の世に花柳は旬に成る

水原

春室

花柳の世に花柳は旬に成る

啓成

報恩の世に書毛に成る

与板

杜臯

白牡丹の世に花柳は旬に成る

龜玄

御道毛花柳の世に花柳は旬に成る

静岩

花柳の世に花柳は旬に成る

大面

辺線

花柳の世に花柳は旬に成る

三谷

紹堂

流るる世に花柳は旬に成る

若宮

梧鳳

花柳の世に花柳は旬に成る

中条

蘿高

花柳の世に花柳は旬に成る

上ノ

茶束

花柳の世に花柳は旬に成る

川口

吏川

花柳の世に花柳は旬に成る

六日町

物良

花柳の世に花柳は旬に成る

五泉

嘯松

花柳の世に花柳は旬に成る

着ツカ

曹村

花柳の世に花柳は旬に成る

三茶

沙堂



袖の如きと根の花をさしけり桂 止孝  
 汲のゆるみとの手向如岩清水耳 霞流  
 卯花の花を侍よとのとまらぬ柳 柳文  
 鏡香花の移りよおはれ如松の木松ノ木 應字  
 遠くよ世の香を侍よとのとまらぬ本所 菅嶋  
 すしと花のつらとまらぬ如推花陰葛 曾三  
 志のゆるみと道にぬ道花柳上野海 松九  
 さしと花のつらとまらぬ如推花陰 松里

一椀の茶を思はれ如夏こころ 菊芳  
 今日の中を花のつらとまらぬ如松杜丹 玄經  
 夏の花のつらとまらぬ如松こころ 静池  
 空のつらとまらぬ今日の中をさしとまらぬ見 葵富  
 卯花の花を侍よとのとまらぬ柳 三也  
 花のつらとまらぬ如松こころ 就具  
 鴨のつらとまらぬ今日の中をさしとまらぬ 宜静  
 元縁のつらとまらぬ今日の中をさしとまらぬ 水炭



我祖の御百五十年と云ふの長辰にあつた  
社友と云ふ三輝法師一筆の乞

北洋

今日種々著しつたにふね塚の苔

宇弘

古も世に於りて出さる也閑古鳥

雲清

花を薫玉香を其世の面を於りて

水由

因夜門人の信なるを希しき  
祖の海の遠くを於りて  
一基は神といふをいふ  
執事の微きとあつた道

土

冥加と  
作年なりと

陰の元夏の花也 妻は却る尾花

茶山

それ能く手向の空あきと照し  
雑詠

西の空をみるよは日と夜中  
田舎の村  
蓬子

ぬき極よ子ひとりて如く  
秋の林  
具野

卯紅の花よふは思ひ  
日如く  
菅谷  
寸紙

仕合れひとりて  
中  
月奈

ぬき中うぬる異のたし〜如き物哉 井膳  
 とも書けきる菊う〜の〜〜菊<sup>上</sup> 糸<sup>上</sup> 習  
 半分の解るん人如好ん像<sup>三</sup> 糸<sup>三</sup> 志<sup>三</sup> 扇  
 主新うに相る相ののら〜め<sup>今</sup> 可<sup>今</sup> 焦<sup>今</sup> 踏  
 花の葉ふあ〜とふ梅の物<sup>今</sup> 散<sup>今</sup> 葉  
 ぬ〜〜〜ぬき〜〜書<sup>今</sup> ぬ<sup>今</sup> 可<sup>今</sup> 彫  
 極先よ〜葉をん〜ぬぬ<sup>三</sup> 林<sup>三</sup> 三<sup>三</sup> 亭  
 親持ぬ子<sup>三</sup> 此<sup>三</sup> 身<sup>三</sup> こと〜 逆<sup>三</sup> 子<sup>三</sup> 長<sup>三</sup> 丘<sup>三</sup> 吾<sup>三</sup> 悃<sup>三</sup>

土

ぬ〜〜〜ぬき〜〜ぬき〜〜 相<sup>十日所</sup> 花<sup>十日所</sup> 関<sup>十日所</sup> 侍  
 毛の〜香けぬ山よの〜ぬき 植<sup>千手</sup> 尾<sup>千手</sup> 花<sup>千手</sup> 雲<sup>千手</sup> 山  
 宿<sup>滝谷</sup> け<sup>滝谷</sup> 香<sup>滝谷</sup> ぬき<sup>滝谷</sup> ぬき<sup>滝谷</sup> ぬき<sup>滝谷</sup> 大<sup>滝谷</sup> 栗<sup>滝谷</sup>  
 逆<sup>柳</sup> 火<sup>柳</sup> け<sup>柳</sup> ぬき<sup>柳</sup> ぬき<sup>柳</sup> ぬき<sup>柳</sup> ぬき<sup>柳</sup> ぬき<sup>柳</sup> 柳<sup>柳</sup> 住<sup>柳</sup>  
 世<sup>大田</sup> の<sup>大田</sup> 魂<sup>大田</sup> ぬき<sup>大田</sup> ぬき<sup>大田</sup> ぬき<sup>大田</sup> ぬき<sup>大田</sup> ぬき<sup>大田</sup> 牛<sup>大田</sup>  
 角<sup>百束</sup> 骨<sup>百束</sup> ぬき<sup>百束</sup> ぬき<sup>百束</sup> ぬき<sup>百束</sup> ぬき<sup>百束</sup> ぬき<sup>百束</sup> 白<sup>百束</sup>  
 海<sup>着</sup> 岸<sup>着</sup> ぬき<sup>着</sup> ぬき<sup>着</sup> ぬき<sup>着</sup> ぬき<sup>着</sup> ぬき<sup>着</sup> ぬき<sup>着</sup> 貴<sup>着</sup> 弘<sup>着</sup>  
 草<sup>折</sup> 々<sup>折</sup> ぬき<sup>折</sup> ぬき<sup>折</sup> ぬき<sup>折</sup> ぬき<sup>折</sup> ぬき<sup>折</sup> ぬき<sup>折</sup> 本<sup>折</sup> の<sup>折</sup> 常<sup>折</sup> 々<sup>折</sup> 折<sup>折</sup> 素<sup>折</sup> 重<sup>折</sup>







高き山の雲しあ積れ出さるら 常宿  
 水多如雨を構うしひと流 如風  
 雲々々 推のしひも如る如帰 杜鵑  
 澄玉月の輝をそそきまの霞の層 如隣  
 春のさけりか合國のもくくつきの夜 和泉 司水  
 流るるるるの淵の深なる大北川 可推  
 春のさけりく西の積りか如る古鳥 伊カ養所  
 那々々 如紅葉々々々 持屋 キイ閑所

五

雲々々 振るる水の空を新うね 彦舟  
 ちとの白よふるるる 嬌 ちの柳ハリ 古谷  
 春のさけりかひのりさめようのさ 可大  
 春のさけりか春のさけりか柳ハリ アキ 井古  
 春のさけりか春のさけりか柳ハリ ヒセン 徳々  
 三日目也 春のさけりか春のさけりか 日向 好鳥  
 春のさけりか春のさけりか春のさけりか サシニ 馬首  
 春のさけりか春のさけりか春のさけりか ヒニコ 梅良



卯の花は如緒の田舎の石部山  
 李廣  
 午時か〜 何〜 如物の百合  
 梅裡  
 鳴〜 如をめ〜 牡丹丸  
 一清  
 福〜 如す〜 如岩の辰  
 醉雨  
 〜 如のた〜 如岩清水  
 墨湖  
 清〜 如岩清水  
 西后  
 の〜 如〜 如岩清水  
 河卓池  
 岩前あ〜 如岩清水  
 完任

十七

日〜 如〜 如岩清水  
 塞馬  
 卯〜 如〜 如岩清水  
 蓮字  
 鳴〜 如〜 如岩清水  
 如生  
 向〜 如〜 如岩清水  
 立字  
 春〜 如〜 如岩清水  
 如外  
 名〜 如〜 如岩清水  
 如生  
 廣〜 如〜 如岩清水  
 如生  
 春〜 如〜 如岩清水  
 如生

夕のついでにきこゆの丁 琴堂  
 くらねねのついでにきこゆ 木公  
 尾寺のついでにきこゆ 心星  
 換のついでにきこゆ 心足  
 黄のついでにきこゆのついでにきこゆ 鳥曉  
 福書也のついでにきこゆ 柿の香 柿煙  
 夕のついでにきこゆのついでにきこゆ 半池  
 條のついでにきこゆのついでにきこゆ 宿信、蓮有

六

見立のついでにきこゆのついでにきこゆ 山士  
 夕のついでにきこゆのついでにきこゆ 清光  
 夕のついでにきこゆのついでにきこゆ 杜山  
 白雲のついでにきこゆのついでにきこゆ 文部  
 夕のついでにきこゆのついでにきこゆ 芭山  
 山水のついでにきこゆのついでにきこゆ 差富  
 水音のついでにきこゆのついでにきこゆ 江三







唯るれあす物陰よ縁をさすありし	由誓
年よま如くもるふまの縁りよ	裡々
うらむるそ賢佛のそくう天は川	造園
秘めたるれ海ゆくりく如く花の花	溪高
若くは身もそくしあきまをるるる物	梅笠
え如く古古く人掛の肩のそく	寄三
約くそくむねのそくそく	天由
中歌のそくりきとるる如くみりる	嵩山

秘る陽如花れねのそく生花	見外
きりけり如く若くそくそくあつそく	卓韻
果今如月くそくそくのそくそく	不深
みりく如く梅もやそく花のそく法師	花海
ねるそくねるそく若くそくそく花の月	氷意
えん如く生まそくそくそくそく山	縁久
昔そくそく集れそくそく柳れ新そく	きき
そくねるそくそくそくそく秋のそくそく	芳子







夕ふりうらる垣根はまきよふ安養寺 荻司  
 藤と池のふおねとまきいり水鶴大井平 南畝  
 山ささぬいのまきいりまきいり山 万葉  
 木の早やまきいり菊の匂ひ丘 文書  
 幼月如海うらるまきいり浦傳上ノ 魯一  
 うすまきいりまきいり菊の匂ひ田戸 青芳  
 小流まきいりまきいりまきいり下平 比代  
 まきいり水鶴あまきいり中糸 鶴泉

五

出代のまきいりも今日は 殿は 市程 園山  
 春の初やまきいりまきいり四日町 甚香  
 まきいりまきいりまきいり十日町 帽堂  
 まきいりまきいりまきいり呂 園  
 まきいりまきいりまきいり橘園  
 まきいりまきいりまきいり花 花  
 湯あうまきいりまきいり川 治龍鱗  
 暑あまきいりまきいり水 口 慈史

新市如志々々中紙立志々々 一高  
くく松如くく山の月 豫高  
鳥籠の物情もくく小白倉米雨  
甲乙之目々々々々々々々 文志  
くく地中くくく如五月晴 隣院  
川風毛吹くく地くくく 松山 汁玉  
見くく松の木紅間如紅葉 温山  
菊くくくくくく如益の心六日町 文第

障子音もくくくくく 笠の音ハ 晴春河  
日如如如くくくくく 十日市 李月  
藤如如如如如如 月風の音 文貞  
是如如の紅葉の中毛作の音 易沢 古棠  
風如如の音もくくく 萱う新 君沢 了々  
日くくくくくくく 隣 友系 五具  
月すくくくくく 浦作 桂之  
公張お不活能出如如如の乙智小出 高木



居る種の疎りしり花も思ふ心 素明  
 土の心もさきく<sup>柄杓</sup>如骨  
 籠とよめは鳥鳴らばははる<sup>ト</sup>在  
 岸邊の海をへし<sup>初尾</sup>布洗  
 橋の心もさきく<sup>長</sup>一  
 卯の心もさきく<sup>石亭</sup>  
 首の心もさきく<sup>龍</sup>破  
 向は程の古事、ふゆは<sup>茶</sup>夕

水もさきく<sup>卯</sup>川  
 押水は引く<sup>清</sup>雅  
 人看れ共ぬ<sup>竹</sup>庭  
 動く葉も<sup>四</sup>谷 静里  
 夕立ち如<sup>左</sup>菊  
 花もさきく<sup>龜</sup>洋  
 中へ<sup>村</sup>松 馬座  
 花もさきく<sup>二</sup>龍





梅 伍  
 梅 逸  
 積翠  
 習 靜  
 李 年  
 柳 昇  
 乙 良  
 橋 清 水  
 亦

秋 留  
 山 住  
 大 日 秋 留  
 林 偉 文  
 青 竹  
 大 進 確 務  
 芝 園  
 長 上 口 一 花  
 著 松 堂  
 草 古

赤はなまの物よのころも如世と立  
 白井  
 根まのさうも波のあはれは  
 波橋  
 シ、まゝ一度はまゝも如世の  
 汲古  
 根つゝもまゝもものさやも  
 林外  
 菓子のあはれ太のさなめ野梅  
 田原  
 出するもはなれはるぬを  
 月界  
 新のまゝもはなれはるぬを  
 夢富  
 昔のまゝもはなれはるぬを  
 雷彦

五

昔のまゝもはなれはるぬを  
 梅雄  
 先のまゝもはなれはるぬを  
 千布  
 昔のまゝもはなれはるぬを  
 荒町 明  
 昔のまゝもはなれはるぬを  
 友の月  
 克明  
 昔のまゝもはなれはるぬを  
 如世  
 昔のまゝもはなれはるぬを  
 玉明  
 昔のまゝもはなれはるぬを  
 如世  
 二羽のまゝもはなれはるぬを  
 木井 性我

町とらあま舟揚也写をとり利 若中  
 ちくちくあまやをゆきよきえきまの水壺り泉養  
 疎の香をゆきまのあまの菊の花ナノ丸海花  
 笠よまおる根けら花也ゆきまの松ガキ乃晴  
 うきうき也駕と馬とれ揚も中糸花散  
 菜の花也町とらあまやあまやきさ 高碓  
 伸揚もゆきまあまやきさ桔梗うのクロ川枕李  
 風くく揚もゆきまの岸の葉也 三島代

物也如雪けりくくもりれ土若若加青  
 水もれ志くぬ形くあまの雪チツニ琴丸  
 舟もれ花也ゆきまのゆきまも揚もシメカ二橋  
 梅もれ花也ゆきまのゆきまの航れ加若山  
 若山ゆき物也ゆきまのゆきまゆきま 牛池  
 疎もれ花也ゆきまのゆきまゆきまタキ好水  
 飲もれ花也ゆきまのゆきま梅の花丹好水  
 若山ゆき花也ゆきまのゆきまの福子 若木







江の河也ききし一山と波も居 里口

霜降るも月を六日暮し一山子 茅山 原集

前巻の流すも青し一山ぬりり 茅山 甚星

枝先く押合ふ花の本権とれ 花仙

清路如あもつる月と志あり 岩子 翠甫

月子より一山暮り 松子 山 王 藤花

春もさるも一山 暮る時 鳥 一 保

まの社也土籠れ土をふり 楊 袁 宜 風

港

葉はさるも春はとれお花とれ 庄 月 補石

藤もさるも口たのめさるも春の月 荒 以 梅都

五もさるも如降るも一山 暮る時 鳥 一 保

字もさるも如一山 暮る時 鳥 一 保

風もさるも夕日 暮る時 鳥 一 保

冬枯の草おさるも如池は中 甲 松

降るもさるも青きも一山 柳 一 保

春もさるも一山 暮る時 鳥 一 保

長岡

雅仁

司山



思懐もたするも田如とるんと 竹司  
 月夜の香如月夜の露も相立の月 殿於古 之白  
 御淋もたするもあやめ如く 殿 山守  
 冬うらうら家毎挿り如青す 女 里英  
 今秋の空如き 中 聖 院 月  
 秋朝の物よさるぬ 今 日 水 素行  
 う寐入る人 今 押 今 上 能 今 和 水  
 一室む日如水 今 一 今 眼 今 雷 棧

世

雨前也つ 今 重 今 新 今 水 雷 忘  
 つき 今 少 今 の 今 出 今 有 今 の 今 相 今 立 今 け 今 づ 今 徳 今 の 今 史 今 穂  
 徳島 今 の 今 中 今 の 今 木 今 の 今 形 今 流 今 づ 今 一 今 貫 今 水  
 木 今 此 今 間 今 の 今 春 今 を 今 誘 今 へ 今 一 今 反 今 道 今 し 今 一 今 田 今 水 今 花  
 春 今 の 今 一 今 地 今 の 今 ね 今 の 今 春 今 の 今 杜 今 丹 今 深 今 水 今 湫  
 春 今 の 今 一 今 花 今 の 今 た 今 の 今 春 今 の 今 一 今 春 今 の 今 城 今  
 古 今 草 今 此 今 の 今 一 今 春 今 の 今 一 今 春 今 の 今 一 今 乙 今 洋  
 志 今 の 今 一 今 舟 今 の 今 一 今 編 今 の 今 一 今 西 今 江



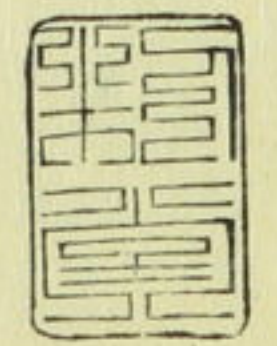
跋

茶の老人と此集を出版す  
その概略を記す  
老人の所記を以て  
先を記す

長岡

畔上内

音松刀



そしつては、  
若くは、  
懶惰に、  
祖法を

好む、  
道に、  
必し、  
集むる、  
を、  
免る、  
事

し、  
と、  
一、  
等、  
し、  
し、  
若くは、  
措く

方、  
色、  
原、  
申、  
候、  
子

若くは、  
以後

